

教科名		音楽(一般)	教科書調査報告(教科書調査委員会)
調査の観点		教育出版	教育芸術社
A 内容について	(1)基礎・基本の確実な定着に関する配慮や工夫がなされているか。	・内容が精選され、生徒にも分かりやすい構成になっている。特に、創作関連の学習が発達段階に応じて楽しくできるよう工夫されている。 ・郷土の様々な民謡に関するページについて、民謡を「仕事歌」「祝い歌」「踊り歌」「子守歌」「楽しみのための歌」と5つの分野に分類し、それぞれについて、2行の説明文と具体的な民謡の例が挙げられている。	・同じ内容が各学年に発展的に掲載されているため、発達段階に応じて繰り返し学習することができる。 ・日本音楽入門のページでは、「日本古来の芸能」「雅楽」「能楽」「近代邦楽」の4つに日本の伝統音楽が分類されている。また、これらの芸能の成立した時代や中心となった人たちがイラストで分かりやすくまとめられ、文章だけでなく視覚的にも内容が把握しやすくなっている。
	(2)課題解決のために必要な思考力や判断力、表現力等を育成することに関する配慮や工夫がなされているか。	・「春」第1楽章のページでは、「Active!」の欄にソネットに描かれている情景と音楽との関わりについて聴き取ったことをまとめる箇所が設けられている。 ・写真が効果的に使用されており、生徒が曲の情景を想起しやすいよう工夫されている。	・鑑賞教材の関連資料や直接記入できるワークシートのページが掲載されている。 ・各教材の横に、音楽的な見方や考え方を働かせて学習するために考えたいポイントが例示されており、ポイントをおさえて学ぶことができるよう工夫されている。
	(3)資料が精選され、その内容が時代に即応したものになっているか。	・コンピューターを活用した表現や学習に関する記事が第1・2学年に掲載されている。 ・共通教材と共に、新しい合唱曲や世界の音楽などが取り上げられている。	・二次元コードから学習に役立つ様々なデジタルコンテンツにアクセスでき、ICTを活用して、より深く学ぶことができる。 ・著作権の内容、生活や社会の中の音や音楽の内容が盛り込まれており、内容が時代に即応したものになっている。
	(4)持続可能な社会づくりに向けた教育・ESDの視点が取り入れられているか。	・SDGsの目標と共にアウトリーチについても取り上げられている。 ・第2・3学年上「HEIWAの鐘」や第2・3学年下の「世界がひとつの家族のように」などSDGs16・17に関わる内容が取り入れられている。	・第2・3学年下でSDGsについて取り上げられており、音楽教育や楽器に使う木材資源について触れられている。
B 使用上の便宜について	(1)生徒が主体的に学習を進めやすいような便宜が図られているか。	・ユニバーサルデザインに配慮されていて、巻末の楽典部分は色彩が工夫され、また、写真が多用されており、分かりやすい。 ・「まなびリンク」(二次元コード)を活用して、曲の情報や指揮の動画など、学習に役立つ情報を得て主体的に学習できるよう工夫されている。	・主体的・対話的な学びから深い学びへと順序だてた手だてが示されている。また二次元コードからワークシートをダウンロードし、ICTを活用して学習できるよう工夫されている。 ・文字情報が精選されており、写真も見やすく、生徒が楽曲のイメージをつかみやすいため、主体的に学習を進められる。
	(2)多摩市という地域の実態に即しているか。	・各地に伝わる芸能から、自分たちの地域の祭りや音楽に結び付けることができる。その中で、東京都の江戸子守唄や江戸の鳶木遣といった民謡が紹介されている。	・民謡の節回しが記載されており、特徴をつかみやすく、また芸能の項目では多摩市について取り上げることが可能である。各地の様々な祭として東京都の三社祭が紹介されている。